

第 141 回東葛しぜん観察会

旧坂川河口・国府台フジバカマの里を訪ねる

前田 悦子(千葉市)

日 時：2017 年 10 月 1 日（日）10 時～12 時 天気：晴れ

場 所：国府台フジバカマの里（市川市）

参加者：一般 28 名 指導員：16 名+協議会 3 名

担当指導員：小川・田中・前田

秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数うれば 七種の花
萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝がほの花 （山上憶良）

万葉集に詠われた藤袴の花をフジバカマの里——江戸川・坂川の護岸工事のために消え去る運命にあったフジバカマやノカラマツ・ノウルシなど湿地植物を市民の提案で堤防をクランク型にまげることによって守った場所——まで途中植物の種子はどのようにして散布されるのかを考えながら訪ねる観察会です。下見の際にキイロスズメバチに指をかまれるという恐怖体験をしたため、スズメバチにはあいまいせんと祈りながら歩き始めました。

川岸には果実をつけたオニグルミが数本並んでいます。これはこの果実が地面に落下した後、水によって運ばれた結果。足元にはホシアサガオ・マメアサガオが咲いています。トウネズミモチに絡みつくセンニンソウは仙人の白く長いアゴひげで風に舞います。強い風の吹く日、メマツヨイグサは塩を振るように小さな種をまき散らします。コセンダングサ・キンミズヒキ・アレチヌスビトハギ・イノコヅチの種子は刺や硬い毛などで人の衣服や動物について運ばれるひつつきむし。鮮やかな赤と藍色の二色効果で目を引くクサギ・美味しいムクノキ・シロダモの赤い実は鳥たちのごちそう、食べたお礼に遠くまで種子を運んでくれます。ヤブマメは熟すと莢をねじって、ゲンノショウコは実が縦に裂け、自分の力で種をはじき飛ばします。

フジバカマは淡い紫色の筒状花で先が 5 裂します。長く伸びているのは 2 裂した柱頭。ツマグロヒョウモンやアカタテハが蜜を吸っています。乾燥した茎葉にはクマリンの香りがあり、平安時代の女性は干した茎や葉を水につけて髪を洗ったそう。また布袋に詰めて匂い袋に。秋の七草に選ばれているにもかかわらず万葉集の中で藤袴が登場するのは上記の一首だけです。

とんぼ池ではタコノアシがきれいに紅葉し、大きなカンエンガヤツリ・ヌマガヤツリなどがみられ、小さなヒメジソ・アレチハナガサ・シナガワハギ・ヤハズソウなどもみられました。堤防の上からフジバカマの里を眺め、フジバカマをはじめとするたくさんの植物、鳥、蝶、虫たちが生活する環境・湿地の景観が未来に引き継がれていくことを願って観察会を終りました。心配したスズメバチの被害もなく、ホッ～。



斜面を降りてフジバカマの里で観察